

港湾都市情報サービス編「港湾業務の体系」

港湾流通叢書

斎藤公助

(日本倉庫協会)

本書を紹介する前に、本書の編者である「港湾都市情報サービス」(代表 千須和富士夫)について述べさせていただく。

「港湾都市情報サービス」(Pocis)は、これまで横浜に所在し広く港湾問題を調査研究している「港湾経済研究所」(所長、高見玄一郎)から去る54年5月独立し、新しく設立された法人である。現在、「港湾都市情報サービス」は、港湾情報を含めた港湾の諸問題に積極的に取組んでおり、これが大きく今後に期待されている。

本書は、これまで港湾経済研究所(横浜)が刊行してきた「港湾流通叢書」の一環であるが、このたび、これを「港湾都市情報サービス」(Pocis)が、前記研究所に肩がわりして発行したものである。(54年11月発行)

本書は、これまで初版から版を重ねること4回。さらに今回は大きく改訂がなされたものであり、したがって今度で5版を数える。

もともと、港湾を中心とした流通業務・事業の形態(実態)は、トランザクションに加え、ドキュメンテーション、さらには荷役等をも含めて、その範囲が非常に広く、また国際的な問題もあり複雑多岐である。

本書の目的ないし「ねらい」は、流通とともに物流に関連した業務で、しかもこれを港湾サイドから広く捉えたものである。これまで、これらに関する著書・文献はあったが、これを一つにまとめ、しかもこれほど広範囲にしかも詳細にまとめたものは少ない。

本書の特長とするところは、これら業務について、その基本ともなるべきことを「実務を中心」にまとめていることである。

したがって、本書は、商社・メーカーなど貿易関係に携わる人々、さらには船社業務、港湾運送ならびに同関連事業に従事する人々、さらにはまた、これからこれらを学ぼうとする人々、あるいはまた、港湾業務を体系的に学ぼうとする研究者にとっては、好個の参考書であるといえる。なおその内容はいずれもきわめて平易かつ懇切に書かれていることであり、これも本書の特長の一つとなっている。このことから、初心者にとってはこのうえもない入門書であるともいえる。

いま、本書の内容を「質疑」の形式でそのポイントを探ってみると、つぎのとおり

である。

- ① 港はどのように変ろうとしているのか。
- ② 入出港・碇泊など港内における船舶は、どのような規制と手続きがなされているのか。
- ③ 港湾運送業務を中心とした港湾業務の実態ならびに輸出入貨物に関するドキュメントの流れはどうなっているのか。
- ④ 輸出入貨物はどのように運ばれているのか。また、コンテナ貨物についてはどうか。
- ⑤ RO/RO船の実態とその荷役はどうなっているのか。
- ⑥ 港湾運送における荷役の仕組みはどうなっているのか。
- ⑦ 檜数・検定業務とはどういうことを行なう業務であるか。
- ⑧ 海貨業とはどういうことを行なうものでありまた、その役割りは何なんであるか。
- ⑨ 港湾に関連の深い業務、例えば通関業、パイロット（水先人）業務、曳船（タグ）業務、通船業務とはそれぞれどんな仕事を行なうものであるか。
- ⑩ 輸出梱包業務とはどんな業務であるか。
- ⑪ 倉庫、上陸、陸運業務は、それぞれ港湾においてどのような役割りをはたしているのか。

なお、本書の執筆にあたっては、それぞれ各界における造詣の深い方々によって書かれている。また、今回から読者の便を図って新たに巻末に「索引」が設けられている。

いま、改めて本書の個々の内容ならびにその執筆者を目次により紹介すると、つぎのとおりである。

目 次

第1編 港湾と海運

第1章 港湾とはなにか—その歴史と展望—	高見玄一郎
第2章 海運業務	大阪商船三井船舶調査部
第3章 本船の入出港手続き業務	関岡 卓史

第2編 港湾運送事業および港湾運送関連事業

第1章 港湾運送事業法	佐々木直彦
第2章 エゼント業務	天田 乙丙
第3章 海運貨物取扱い業務	大森 英俊
第4章 船舶代理店・船内荷役業務	椎野 準一
第5章 はしけ運送事業	森岡 清
第6章 沿岸荷役業務	島田 隆一
第7章 いかだ運送事業	鈴木 高司

第8章 檢数業務	(社) 日本貨物検数協会
第9章 檢定業務	西郷 康雄
第10章 港湾運送関連事業	池田 哲郎
第3編 埠頭経営	
第1章 コンテナ・ターミナル	栗原 一郎
第2章 RO/RO船のターミナル業務	右松 浩
第3章 私設埠頭業務	松本 崇
第4章 フェリー埠頭業務	小宮山 博
第5章 港湾における上屋・倉庫業務	桜井 正
第4編 港湾諸作業	
第1章 船舶信号通信業務	塙田 昭雄
第2章 パイロット業務	{ 竹田 盛和 山口 祐広
第3章 牂船業務	古庄 来鶴
第4章 通船・繫離船・汚濁防止業務	松本 定義
第5章 マリン・サプライヤー業務	服部 貫一
第6章 陸運業務	青山 幸生
第7章 輸出梱包業務	千須和富士夫
第5編 貿易為替管理と海上保険	
第1章 通関業と通関士	大本 孝之
第2章 外国為替業務	池 正爾
第3章 海上保険	島津 昌治

おわりに、一言書評として発言を宥していただけるならば、本書の性格からしてやむをえないが、やはり総花的であるということがいえないこともない。それだけに編著者の労を多とするものであるが、できうればさらに、一貫したものが欲しいと思われる。また、各執筆者間の横の連けい調整も重要なと思われる。

(港湾都市情報サービス、昭和54年11月刊、352頁、定価2,500円)